

名取市と災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式および記念講演会を開催しました(2015/8/5)

テーマ：包括的連携と相互の協力
場所：名取市役所第3・4委員会室

8月5日(水)、名取市役所において、「名取市と東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式」が開催されました。交通の要所であり、仙台空港を擁するという点で東北地方のゲートシティでもある名取市は、東日本大震災の津波により市域の約28%が浸水し、大きな被害を受けました。その後、様々な復興事業を経て、産業や観光・海浜等地域資源を活かして交流人口の拡充を図る新たな段階を迎えています。また、閑上地区は、移転ではなく現地再建を復興の道として選択したことから、復興の中でより防災・減災に取り組む必要があります。

東北大学災害科学国際研究所は、名取市において、地域防災計画策定のための各種検証、生活・健康調査、被災者見回り活動に関する調査、閑上地区における津波避難シミュレーションの実施検討など、同市の防災・減災・復興の取組みを支援してきました。

互いに課題や社会的使命がある中で、東日本大震災からの復興に際し、防災・減災対策および防災教育を、効果的・実践的に進めていくことに関して、名取市と東北大学災害科学国際研究所との思いが一致したことから、本協定を締結する運びとなりました。

締結式には、佐々木一十郎・名取市長および今村文彦・災害科学国際研究所所長(災害リスク研究部門教授)が出席したほか、名取市からは三浦亮一 副市長、石塚昌志 副市長、渋谷武志 総務部長、手嶋日出彦 震災復興部長、大久初見 防災安全課長、菊池博幸 政策企画課長ら、当研究所からは奥村誠 副所長(人間・社会対応部門教授)、阿部昭 事務長のほか、これまで名取市と研究・活動で協働してきた村尾修 教授(地域・都市再生研究部門)、小野裕一 教授、佐藤健 教授(情報管理・社会連携部門)、菅原大助 助教(災害リスク研究部門)、佐藤翔輔 助教、ボレー・セバスチャン 助教(情報管理・社会連携部門)、中鉢奈津子特任助教(広報室)が出席しました。

佐々木市長と今村所長が協定書に署名した後、佐々木市長は、これまで災害科学国際研究所が行った支援に対する謝辞と、今後一層連携を深めつつ、安心・安全なまちづくりにあたる決意を述べました。今村所長は、関係者への御礼とともに、今後、防災教育・居住人口のみならず交流人口を考慮した安全対策・資料保全等で協働し、特に若い世代を視野に入れて防災・減災社会を目指していく所存であると述べました。

締結式に続き、奥村誠 教授が「名取の人口動向を踏まえた防災教育の方向性」と題して講演を行いました。奥村教授は、国勢調査等のデータ分析に基づき、名取市は若者が多く、少子高齢化の進行が遅いという、日本全体と非常に異なる人口特徴があること、また、多様な地域からきた人々を集めているが、転出者も多いことを指摘しました。更に、名取市は「仙台空港(ゲート)」、「閑上」、「転入者を迎え入れ、転出者を送り出す」という点ですべて「門」がキーワードになることに着目した上で、今後、名取市を、「他所から来た人を迎え入れ、防災教育を提供した上で送り出すまち」にすることを提案し、そのイメージとして、「閤」の漢字(これまで存在しなかった新しい漢字)を示しました。講演には名取市役所の幹部職員約60名が出席し、真剣に聞き入っていました。

災害科学国際研究所は、今後も様々な方々と連携して実践的防災学を進めてまいります。

文責：中鉢奈津子(広報室)、佐野緑(情報管理・社会連携部門)
(次頁へつづく)



佐々木市長と今村所長



参加者記念撮影



講演会



奥村教授